

# まちの話題

## 集落到咲き誇るアジサイ

今年も、下甕町内川内集落到、アジサイが咲き誇りました。内川内集落は、甕島最高峰「尾岳」の西側、海拔 200 m ~ 300 m の斜面に位置する集落で、住民の手により整備されたアジサイが、住民はもとより訪れる人の目を楽しませてくれます。



## 今年もおいしい新茶ができました

5月28日(金)、薩摩川内市茶業振興会など市内茶生産者団体の代表者より、令和3年度産の新茶の贈呈が行われました。これは、本市産茶のPRや地産地消への理解を深めてもらうために行われたもので、今年の新茶は例年より10日ほど茶摘みが早く、香り高いのが特徴だということです。



## 本市を舞台にした英語教材

本市に勤務するALT(外国語指導助手)4人が、本市を舞台にした英語の絵本や入来・祁答院地域の学校・地域を紹介する英語教材を制作しました。この教材は、市内の小・中・義務教育学校などに配られ、ふるさとの良さに気付き、その良さを積極的に英語で発信する力の育成を目的に活用されます。



## 「まちの話題」に投稿ください。

まちの話題は、市民の皆さんからいただいた情報により、身近な話題を掲載しています。皆さんからのたくさんの投稿お待ちしております。

### 投稿方法

- ①タイトル(11文字程度) ②本文(140文字程度)
  - ③投稿者名 ④連絡先 ⑤写真1枚~3枚
- を添えて、広報室までメールで投稿ください。  
メールアドレス/koho@city.satsumasendai.lg.jp

※内容やスペースの都合により掲載できない場合がありますので、あらかじめご了承ください。

## 読書環境の充実のために 寄附贈呈式

6月4日(金)、薩摩川内ロータリークラブより、中央図書館へ映像機器一式の寄附があり、目録および感謝状の贈呈式が行われました。これは、同クラブ創立40周年記念事業として行われたもので、今後、視聴覚事業に活用され、読書環境のさらなる充実を図ります。



## 甕島のトシドン継承のために

(一財)神道文化会が行う芸能普及費支給制度に、今回、下甕島に伝わる年中行事「甕島のトシドン」が選ばれ、6月8日(火)、推薦人の照国神社宮司島津修久氏より、甕島のトシドン保存会会長原崎輝宏氏に伝達されました。これは、東京大神宮での伝達式が見送りとなったため、島津宮司が「直接普及費をお渡ししたい」との意向で行われたものです。



▲写真左より、島津氏、原崎氏



# 住宅用火災警報器 寿命は約10年です!



住宅用火災警報器が、平成23年6月1日にすべての住宅への設置が義務化されてから令和3年6月1日で10年が経過しました。住宅用火災警報器は、一般的には電池で動いています。火災を感知するために常に作動しており、その電池や電子部品の寿命の目安は約**10年**とされています。

住宅用火災警報器は、かけがえのない家族の命や大切な財産を守る重要な役割を果たしています。「いざ」というときに適切に作動するように、定期的に作動確認および本体の交換を行い、住宅用火災警報器の正しい維持管理を習慣づけましょう。



編集/薩摩川内市消防局予防課 <http://www.satsumasendai-fd.jp>

薩摩川内市消防局

検索

## 住宅用火災警報器を チェックしてみましょう!

### 確認

製造年月や設置した時に記入した設置年月を確認しましょう。**10年を経過**しているか**10年未満**かがポイントです!

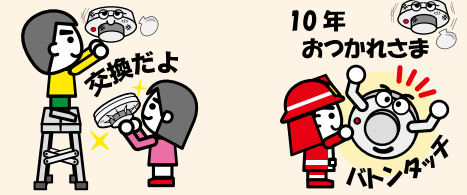
〈記載場所例〉



※記載場所はメーカーや製品によって異なります。

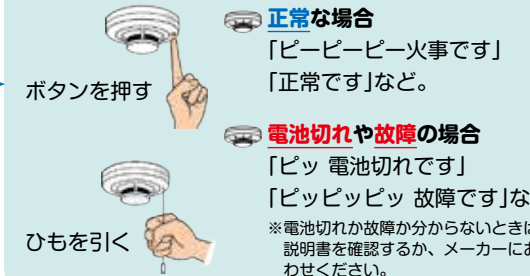
### 交換

交換の目安は10年です。10年を経過すると、本体内部の電子部品が劣化して火災を感知しなくなることが考えられるため、本体の交換を推奨しています。



### 点検

点検ボタンを押すかひもを引っ張り、定期的に作動確認をしましょう。警報器に反応がなければ、故障か電池切れです。警報器の本体または電池を交換しましょう。



10年経過

10年未満

平成29年から令和元年までの3年間に発生した全国の住宅火災について、住宅用火災警報器を設置していた場合は、設置していない住宅火災の死者数が約50%減少という結果が出ています。設置することで、早期に火災に気付き避難することができます。

## 住宅火災 100件当たりの死者数 (平成29年~令和元年)

